農業農村整備に関する技術開発計画（案）への意見（案）

全体について

2023 年 3 月に改訂された「農林水産省生物多様性戦略」では、2030 ビジョンとして「農山漁村がはぐくむ自然の恵みを生かし、環境と経済がともに循環・向上する社会」が掲げられ、基本方針においても「（１）農山漁村における生物多様性と生態系サービスの保全」を行うことが明記されています。また、施策の方向性においては「生物多様性や気候変動等の環境課題を一体的に捉え、国内外の多様な主体と協働で取り組む」とされています。その結果として形成される自然の恵みが生かされた農村環境は、農村の魅力を向上させ、農村と都市部の人的交流も促進すると考えられます。

農業農村整備に関する技術開発計画（案）では、環境負荷低減や気候変動対策に係る技術開発は多く述べられている一方、一体として捉えられるべき生物多様性保全に関する技術開発が大きく不足しています。

そこで、技術開発にあたっては、開発した技術の社会実装の際に生物多様性への影響を回避・軽減されるよう、生物多様性への配慮を行うことが明確となる説明を加えてください。

意見１　P4　行番号 31～33 について

環境への負荷を低減するという視点から、農村における再生可能エネルギー導入には賛成しますが、再生可能エネルギーと生物多様性保全の間にはトレードオフが存在する場合があります。したがって、導入の際には生物多様性への配慮が必須であることから、31 行目から 33 行目の文章を「農村における再生可能エネルギーの地産地消は、環境への負荷低減に貢献するとともに災害時の地域のレジリエンス強化にも資するものであり、地域の生物多様性に与える影響を回避・低減した上で、導入を促進する必要がある。」としてください。

意見２　P6　行番号 11～13

所得や雇用機会、生活環境、多様な人が関わる機会などの農村の価値や魅力は、農村の景観や生態系が健全に維持され生態系サービスの享受が継続して可能であればこそ発揮されるものです。そこで、政策目標にも景観や生態系を追加し、「【政策目標５】農村における所得の向上と雇用機会の創出、農村に人が住み続けられる生活環境の確保、多様な人材が関わる機会の創出、農村景観と農地生態系の維持向上」としてください。

意見３　P8　行番号８

農村地域の多様な資源としては、挙げられているもののほかに、農村景観や農地の生物多様性も加えるべきです。そこで、８行目を「また、農村地域には農村景観や二次的自然における生物多様性をはじめとする多様な地域資源があり、」としてください。農地のような二次的環境は都市部から失われているため、景観や生物多様性は都市部と農村の多様な人的交流の重要な資源となります。

意見４　P8　行番号 20

「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」にもあるように、農業の多面的機能はその発揮により国民に多くの恵沢をもたらすものであるため、環境への負荷をさらに低減することに加え、向上させることで農村の魅力をより一層高めることができます。そこで、20 行目を「・農業による環境への負荷をさらに低減するとともに生物多様性を向上させることで農地景観の魅力を高め、」としてください。

意見５　P8　行番号 20～21

営農型を含む太陽光発電は、設置の方法によっては地域の生物多様性や景観に影響を与えます。そこで、適切な形で太陽光発電を導入するため、20 行目を「生物多様性や景観に影響を与えない太陽光発電、小水力発電、(以下省略)」としてください。

意見６　P10　行番号 17～20

気候変動対策と生物多様性保全は同時に進めるべきですが、両者の間にはトレードオフが存在する場合があり、中干し期間延長もそのひとつです。したがって、技術開発にあたっては生物多様性への影響の把握とその軽減も同時に行うことが必要です。そこで、17 行目から 21 行目までを「J クレジット制度の活用を含めた、中干し期間延長による水田でのメタン発生抑制の取組を進めるため、水管理操作を円滑にする自動給水栓の利活用に関する技術開発を推進するとともに、生物多様性への影響回避のためのモニタリング手法と回避技術の開発を推進する。」としてください。

意見７　P19～20　【推進する技術開発テーマ】＜環境負荷低減に係る技術＞

気候変動対策と生物多様性保全の間には時として予期せぬトレードオフが発生することから、技術開発にあたってはその回避・低減技術の開発も併せて行う必要があります。そこで、表の最下段に「・上記の技術が生物多様性や農地生態系に及ぼす影響を把握し回避・低減する技術」を加えてください。

意見は以上です。